

次回展のご案内 2

WATARI-UM  
The Watari Museum of Contemporary Art



# 24fps - JRの映像展

Les Bosquets

2015年11月8日[日] - 11月29日[日]



Ellis

主催：ワタリウム美術館

休館日：月曜日[11/23は開館] 開館時間：11時-19時 [毎週水曜日は21時まで延長]

入館料：大人 1000円 / 学生 [25歳以下] 800円 / 小・中学生 500円 / 70歳以上の方 700円

ペア券：大人 2人 1600円 / 学生 2人 1200円

会場：ワタリウム美術館 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6

Tel:03-3402-3001 Fax:03-3405-7714 official@watarium.co.jp <http://www.watarium.co.jp>



「展示で一番大切なのは作品だけではなくて、現場の人たちと会って、それぞれの問題について話して、そこから生まれるもの。」(JRのインタビューより)

自身の活動はアートを通じ人々を結びつけることであると語るJRは近年、映画の製作によりそのことを伝える。2013年以降JRの活動を伝え続けるワタリウム美術館では、若者の暴動や移民をテーマに昨年／今年に制作されたJRの最新作映像3本と関係作品を展示します。

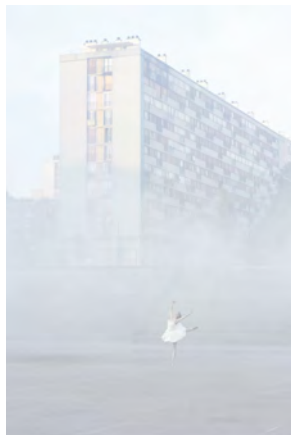
## エリス Ellis

エリス島は、1892年から1954年まで、アメリカの1200万人の移民にとって入り口であり、入国が認められない者たちにとっては、アメリカの最後の場所であった。昨年、JRはエリス島の記憶をよみがえらせようと、その島の廃墟と化した移民局病院の壁に、過去の患者や職員のポートレイトをペーストしたインスタレーションを展示。さらに、本年、主演ロバート・デニーロ、脚本家エリック・ロスとともに、フィルム「エリス島のゴースト (The Ghosts of Ellis Island)」を撮影した。

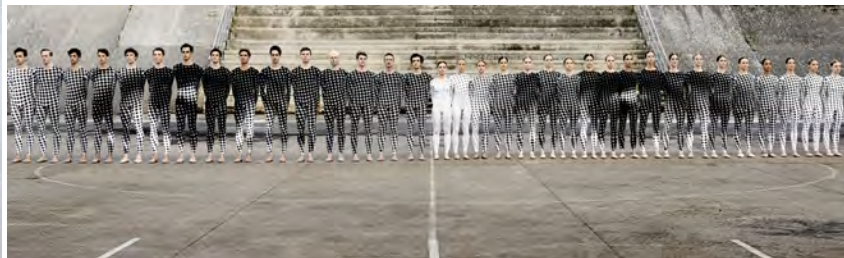
「僕はロバート・デニーロに移民として来たが最後まで受け入れられず、そのままこの島で幽霊になった役をお願いした。彼の視点で見て、彼の物語を聞いてそれが徐々に今日の出来事につながっていく。」 JR (phaidon news より)



## レボスケ Les Bosquets



このフィルムは、フィルム・ディレクターのラッジ・リのストーリーと、ニューヨーク・シティ・バレエ団が「2005年パリ郊外暴動事件」をテーマに制作したパフォーマンス「レボスケ (Les Bosquets, 2014)」をもとにつくられた作品。JRの最初のプロジェクト「ある世代のポートレイト (Portrait of a Generation, 2004)」の舞台ともなったパリ郊外のモンフェルメイユでの体験も描写されている。



## リヴァージュ Rivages

2014年、全長363メートルの船がフランス、ル・アーブル港を出航し、世界を渡ってマレーシアを目指した。JRと彼のチームによって2600枚の紙が10日間で、この港の港湾労働者らとともにコンテナにペーストされた。父から息子に渡る伝統的な価値が深く根付いたこの港には、女性は全くいない。彼らは女性の目をペーストするのを手伝い、これがこの港での初めての女性だった。このプロジェクトは「リヴァージュ (Rivages)」と題され、Guillaume Cagniardにより映像化された。「女性たちはヒーロー (Women Are Heroes)」シリーズの最新プロジェクト。



## JR(ジェイアール)

1983年生まれ、フランス出身のアーティスト。屋外の建物や通りに巨大な写真を貼るというグラフィティ表現を用いる。世界各地で弾圧や貧困、差別のもとで暮らす人々を撮影し、それを現地の人たちと壁に貼る活動を展開中。現在はパリとニューヨークを拠点とする。